

現代社会

第4問 問2 「22」

戦後の日本経済の知識と文章の読解を求める問題で、各学力層で差がついた

問2 ツジさんは祖母の家に行き、蔵のなかをみた。すると、政府が作成した文書がそろえて置かれてあり、興味深く讀んだ。後のa～cは1956年・1966年・1976年の『年次経済報告』のいずれかである。また、それぞれの報告の末尾の [X] ～ [Z] には、これに続く文章である次ページのA～ウのいずれかが入る。次の「考えるヒント」を読みながら、ヒントのなかの [Y] ・ [W] に入るものの組合せとして最も適当なものを、後の①～⑥のうちから一つ選べ。なお、それぞれの報告は一部抜粋したものであり、読みやすくなるため省略した箇所やかな遣いを改めた箇所がある。 [22]

「考えるヒント」

授業で戦後の日本経済のあゆみについて学んだと思います。その内容を思い出しながら、a～cを讀んでほしいです。

そして、a～cの内容と下のA～ウの内容を関連づけながら考えると、[Y] に入る文章がどれか判断できると思います。

また、a～cを古いものから順に並べた場合、1966年の『年次経済報告』は [W] であるということも判断できると思います。

a 日本経済の回復の速やかさには誠に万人の意外にでるものがあつた。それは日本国民の勤勉な努力によって培われ、世界情勢の好都合な発展によって育まれた。……。消費者は常にもっと多く物を買おうと心掛け、企業者は常にもっと多くを投資しようと待ち構えていた。いまや経済の回復による浮揚力はほぼ使い尽くされた。……。消費や投資の潜在需要はまだ高いかもしれないが、戦後の一時期に比べれば、その欲望の熾烈さは明らかに減少した。 [X]

b わが国経済の動きをふり返ってみると、敗戦の灰燼の中から不死鳥の如き復興をなしとげ……。海外資源価格は安く、かつその供給制約の心配はないものと一般に考えられていた。ところがこのような内外の好条件の多くは、いまや消滅する方向にある。一次産品についてはその価格は上昇傾向にあるばかりでなく、供給制限の懸念さえある。……。さらに、内外技術格差も縮小し、安直に外国から新技術を求める余地も少なくなっている。 [Y]

c 日本経済は、早いテンポで成長したが、それは毎年同じペースで伸びてきたわけではない。……。高い成長力という……すう勢が基底にあり、現実の経済発展がそれをオーバーしたり、不足したりすることによって波動を生じた。いわば成長と変動とが重ね合わされているのが過去10年間の日本経済の姿であつて……。高い経済成長の達成は、国民福祉向上のため今後とも必要であるが成長過程において激しい景気変動が生ずることは避けなければならない。 [Z]

A 成長が高くても変動が激しければ、ブーム期には投資は行き過ぎ、反動期には企業倒産の増大、企業経営の悪化等が発生する。

イ もはや「戦後」ではない。我々はいまや異なった事態に当面しようとしている。回復を通じての成長は終わった。今後の成長は近代化によって支えられる。

ウ しかし、戦争による灰燼からの復興とそれに続く経済成長の過程でいかなく発揮されたわが国経済に内在する適応力はいまだ失われていない。このことは、……戦後最大の不況を乗り切り狂乱インフレを克服したことに示されている。

① Y-A W-a

② Y-A W-b

③ Y-I W-c

④ Y-I W-a

⑤ Y-U W-b

⑥ Y-U W-c

第4問 問2 「22」

正解率 33.4%

SS70～75 51.6%

SS65～70 46.1%

SS60～65 42.1%

SS55～60 40.6%

SS50～55 38.0%

SS45～50 35.0%

2023年度第3回ベネッセ・駿台
大学入学共通テスト模試
「現代社会」

受験者数: 42,668人

平均点: 47.6点

標準偏差: 15.1

現代社会

第4問 問2 「22」

戦後の日本経済の知識と文章の読解を求める問題で、各学力層で差がついた

結果分析

第4問の問2は、各年の年次経済報告を読み、ヒントをもとに空欄に入る文章を考察する問題で、戦後の日本政治のあゆみについての正確な知識も必要なことから、各学力層で差がつかしました。

まず、それぞれの年次経済報告のなかからキーワードを抽出し、キーワードと結びつく内容を各選択肢の文章から正確に読み取ることができる力が問われました。さらに、空欄をうめたうえでそれぞれの年次経済報告の年代を判断する必要があり、高度経済成長期にあたる記述や第一次石油危機に関する記述を読み取ったうえで、それぞれの時期に当てはまるかを判断する正確な知識が求められました。

指導のご提案

現代社会の共通テストでは、各分野についての正確な知識を身につけていることが高得点をめざすうえで重要です。実践的な問題演習を重ねるなかで、正解率が低い分野があれば、その分野に関する既習事項を改めて整理しなおし、苦手分野をなくすように準備しておくことが大切です。

さらに、共通テストでは、文章や図、グラフ、表などの資料を短時間で読解することも重要です。本問のように長い文章からキーワードを見つけなければ解答できないこともあるので、限られた時間のなかで解答に必要な情報を資料から見つけ出し、根拠をもって正解を判断する練習を重ねることをご提案します。